



Eiche

# Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-681 ワールドナーシングホーム内

Phone: 047-467-6111 Fax: 047-467-6123

## 新春講演会 開催



田久保講師



田久保講師を囲んで

当協会恒例となった新春講演会は、1月29日(土) 14:30より西千葉駅前の喫茶「サン」に26名の会員を集めて開催された。「2005年の国際情勢」と題して、昨年は体調不良で講演して頂けなかった杏林大学客員教授の田久保忠衛氏(当協会副会長)をお願いした。

氏は相変わらず鋭い舌鋒で一般のマスコミ批判を行い、国際情勢分析には視野の広さと裏づけが欠かせないとして、一般のマスコミとは一味変わった見方を披露され大いに参考になった。講演会終了後も質問が相次ぎ、懇親会のスタートは1時間遅れて16:30近くになってしまった。懇親会では、橋口常任理事より10月20日~22日に千葉大学と共催で行われる「日本におけるドイツ2005/6」について途中経過の説明があった。(裏面参照)

なお、今回は特別ゲストとしてDAAD(ドイツ学術交流会)事務局の関英子さんにも参加していただき、関さんからはドイツケーキの差し入れを頂戴した。

### 二〇〇五年の国際情勢

杏林大学客員教授 田久保忠衛

先ず、現在の世界は戦後長く続いた米ソ二極支配が終わり、米国の一極支配の下にある。とすれば、アメリカ研究をせずには国際情勢は語れないのである。

そのアメリカのブッシュ政権は「イラクがテロリストの手に渡り石油を武器にすると世界は混乱する」との前提でイラクに対処しているわけで、「強い米国が弱い国を叩くのはけしからん」との議論は的外れである。ところで、ブッシュ政権で外交をリードしているライス女史はアラバマ州の出身で、元々はピアニストでフィギュア選手でもあったが、オルブライト前国務長官の父親に触発されて猛勉強し大学卒業後はブッシュの父親に認められてソ連担当となり、ブレイキ役のパウエル国務長官と並んでアクセル役を務め、ブッシュ政権の外交政策をリード、現ブッシュ政権でも国防省と国務省の調整役をしている切れ者。今の政権では、ブッシュがライス女史をはじめとする側近達とホワイトハウスで会食しながら何でも決定できる「キッチン・キャビネット」が出来ているのが特徴である。

さて、現在アメリカは単独行動主義であると批判する向きがあるが、この二月にはライスに次いでブッシュ訪欧が予定されており、これはイラク攻撃で仏独と諍いをおこしたのでこれを修復しようとするものであり、同盟国重視の現れである。思うに米欧関係悪化の原因は二つあり、その一つは構造的な世界秩序の変化。これはソ連崩壊によりワルシャワ条約機構軍と対峙していたドイツの戦略的重要性が薄れてラムズフェルドが「独仏は古い欧州」と発言、シュレーダー首相を怒らせたこと。次に二〇〇一年九月十一日の三千人の死者を出した悲惨な同時テロをテレビで目の当たりにした米国民とこれを左程切実には感じていない欧州との現象面での差である。

(裏面へ続く)

～今後の催物案内～

- 1. 平成17年度総会
  - 日時：5月14日(土)14:30~17:30
  - 場所：西船フローラ (JR 総武線西船橋駅 徒歩3分(TEL: 0120-262427))
  - 式次第：総会 14:30~15:00
  - 記念講演 15:10~16:00
  - 講師 NRW JAPAN KK 社長 BECKER 女史
  - 演題 「最近のドイツ事情」
  - 懇親会 16:10~17:30
  - 会費 4,500円
- 2. ワインを楽しむ会
  - 日時：7月に予定
  - その他の詳細は後日。

訃報



当協会顧問で千葉県日独協会設立に際して多大な貢献をされた常木實東大名誉教授は1月31日心不全で逝去された。享年91才。

氏は大正2年7月に千葉県勝浦に生まれ、昭和13年東京帝国大学独逸文学科卒業後外務省嘱託となり、退庁後は外務省から日本橋の博文館へ通い「木村・相良独和辞典」の校正の手伝いをされた

たとのこと。その後旧制高等学校、立教大学を経て東大で教鞭をとられ、東大退官後は平成6年に帝京大学を定年退職されるまで数々の輝かしい業績を残されるとともに後進の薫育に情熱を燃やされ多くの俊秀が輩出している。

平成4年5月にドイツ連邦共和国功労勲章一等功労十字章を受章されたほか、今般の死去にあたり政府より従四位瑞宝中綬章追贈の栄に浴された。謹んでご冥福を祈りあげます。

千葉県日独協会・千葉大学共催  
「日本におけるドイツ2005/6」の概要

- 日時：平成17年10月20日~22日
- 場所：千葉大学(JR 総武線西千葉駅前) けやき会館
- 内容：詳細は現在検討中であるが下記
- (催し物) 10月20日(木)16:00 開会式
- 16:30~講演会又は映画
- 10月21日(金)10:00 映画、講演会
- 日独学生討論会
- 10月22日(土)11:00 講演会
- 14:30 チターとヨーデル
- 18:00 ビール祭り
- (写真展) 千葉県内の市町村とドイツとの関係を写真にて展示。習志野市・市川市・御宿町・袖ヶ浦市・茂原市ほか。

挨拶する関さん



開会の辞の谷村元海自音楽隊長



又、日本のマスコミの中には「イラクに大量破壊兵器はなかった」「テロリストとサダムフセインの結びつきは証明できない」としてブッシュ批判が横行したが、米下院情報委員会や英バトラー委員会の調査共「イラクに大量破壊兵器はなかったものの、その保有意図と製造能力は確実にあった」としている点は注目すべきである。事実フセインはコンゴにウラン鉱買い付けに走ったり、第一次湾岸戦争後に三十六の国連決議に違反しており、これらの批判をしないのは片手落ちではないか。

いづれにせよ、ブッシュの言うように「いつどこから誰がいかなる手段で誰を襲うかわからない」のが新しいテロであり、これまでの戦争対処法では対応不可能である。そして、アフリカ、中東、南アジアは「不安定の弧」といわれており、北朝鮮、イラン、イラクも含まれる。その北朝鮮に対して、金大中は太陽政策を取り、大量の物資と金が北に流れた。そして現政権のノムヒョン大統領も「アメリカが六カ国協議の他に北を叩くなら自分は北とアメリカの仲立ちになる」と発言してアメリカを怒らせている。当の北朝鮮は、「南の武装解除が出来た」としており、このような情勢の中で日本は何とかが対応していかなくてはならないのである。

最後にドイツであるが、二年前にシュレーダーが政権についた後、緑の党との取引で「イラク攻撃に反対」とコミットしシラク仏大統領と同一歩調を取ってきた。現在シュレーダーは再選の芽が出てきているがシラクは絶望的であり、近い将来ドイツは欧州の指導的国家になる可能性がある。